

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念・基本方針、事業所の理念を玄関掲示板に掲げている。事業所の理念として、一．ところを込めたケア 二．その人の尊厳を守ります 三．ケアの質の向上 四．笑顔で過ごせる空間づくり 五．地域交流を深める と掲げている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を提示するとともに、職員へも配布して周知している。	○ ミーティングや職員面談の際に、理念を再確認していく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	法人の理念・基本方針、事業所の理念を玄関掲示板に掲げていつでも、誰でも見ていただけるようにしている。 法人ホームページ上にも法人の理念・基本方針を表示している。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日課で散歩に出かけた際に、挨拶をする。	○ 自治会や地域の行事に協力させていただくことで、こちらからの関わりだけでなく、外部からのボランティアの受け入れなどを行っていく。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	初年度は夏祭りなどのイベントに参加させていただいた。	○ 運営推進会議等を通じて、地域の方から地域行事について情報を得て、日程調整をさせていただく。 年間行事計画に地域行事参加を盛り込む。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる</p>	<p>運営推進会議を利用し、認知症予防や認知症介護 に必要な知的活動や運動の効果などを伝えている。</p>	○	<p>事業所見学などを通じて、介護相談や施設の開放 などへつなげ、専門職としての情報提供をおこな う。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>スタッフ3名で自己評価を実施。 経営側だけで評価を行わず、現場スタッフも評価 に関わることで、問題の共有、違った視点での解 決方法を探る。</p>	○	<p>法人内（甲有会）内部監査が実施されており、グ ループホームも今後実施されることとなっている 。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている</p>	<p>まだ3回の実施であるため参加者顔合わせと、当 方からの報告がほとんどである。</p>	○	<p>2か月に1回の開催を継続し、参加者の皆様に少し ずつ慣れていただくことで、ご家族や地域からの ご意見を取り入れていく。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる</p>	<p>豊中市役所と中央地域包括支援センターの方に運 営推進会議に参加していただき、状況報告を含め た情報提供を直接行っている。 事故発生時の報告要綱を定め、発生時の報告を行 うとともに、報告書の提出を実施。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>・入職時研修に、『高齢者虐待と身体拘束につい て』の項目を定めている。年間研修の中にも同様 の内容を含め、段階的に研修を行う。 ・身体拘束ゼロへの手引きの書面を全職員が閲覧 できる。 ・成年後見人制度の資料を見れるようにしてい る。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>・入職時研修に、『高齢者虐待と身体拘束につい て』の項目を定めている。年間研修の中にも同様 の内容を含め、段階的に研修を行う。 ・利用者の身体状況等の異変を日々確認してい る。 ・管理者は日々スタッフの様子を見てコミュニ ケーションをとっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居契約の場を設け、契約書、重要事項説明書を事業所職員から説明させていただいている。表記項目に関する質問はその都度確認し回答している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱を設置している。苦情（相談）報告書を用意し、ご意見や相談があった場合に活用する。苦情報告書を掲示している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会に来られた際に近況報告を行っている。必要性がある場合にその都度電話連絡にて報告、対応をしている。面会に来られないご家族には、請求書・領収書などとともに簡単なお知らせを同封している。健康管理については往診の診療所から、診療情報をご家族へ送付している。</p>	<p>○</p> <p>家族報告書を設け、グループホーム全体的な活動等に関してだけでなく、入居者の状況を個別にご家族へお伝えできるようにする。担当者を決定し、月に一度報告書を送付する。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱の設置。苦情（相談）報告書を用意し、ご意見や相談があった場合に活用する。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>稟議（企画）書を活用し、イベントの開催や必要物品の購入など職員からの意見を出してもらっている。また、それらの記録を残すことで次回以降の意見や提案が行いやすいようにしている。日々にコミュニケーションをとって意見を吸い上げている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務シフトは1月毎に決めているが、状況に応じて変更可能である。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>『やりがい』を持って働ける職場環境を整備しチームで成し遂げることに配慮している。</p> <p>2ユニットを1人で夜勤を行う体制とすることで、日中時間にスタッフが勤務できる日数を多く確保している。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入職時の合同研修や、新入職員向けの法人全体での研修に、既存職員も参加できるように配慮している。</p> <p>併設特養と合同で年間研修計画（毎年年度末作成）に沿って研修を実施。</p> <p>日々管理者も含め、気づいた点を指導している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大阪府社会福祉協議会の開催する定例会へ参加している。</p> <p>各種研修に伴う実習の受け入れを行い、関係づくりをおこなっている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>短時間夜勤を導入することで、職員の身体的負担の軽減を図っている。</p> <p>コミュニケーションの場を多く設けている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>契約更新時や賞与評価時など、定期的に評価シートをつけることで、各自が自己を見つめ直す機会や、評価者の指導を受ける機会を設けている。</p>	○	<p>09年度はユニットリーダーに目標管理シートを作成してもらう。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会や外出が気軽に行っていただけるよう支援している。</p> <p>イベント開催時にはご家族の参加も促し、一緒の時間を過ごして頂けるような体制を作っている。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>必要な方については相談内容に応じて、相談・連絡先を変更して、過去のご家族の役割を維持していただく。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご家族以外の面会も受け入れている。</p> <p>教会の礼拝など外出支援。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>レクリエーションなどを通じて一緒の時間や感情を共有していただく事で、お互いが安心した存在となるよう支援。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>入院退所後の特養入所に関する申し込み支援を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>			
<p>1. 一人ひとりの把握</p>			
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入所前に訪問面接することで、本人、家族の希望、意向を把握する。入所後は日々の記録を元に、各ユニットで情報共有と意見交換を行い、ケア方法や対応方法の変更に努める。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>訪問面接時のシートの中に、過去の経歴を探るシートがあり、本人の過去の生活について確認できる。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>事前面接での情報収集のほか、ご家族に現状に関するアンケートを記入してもらい、状態把握を行っている。入居後1週間は1時間ごとの状態を記録し、どのように支援するか検討する材料としている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居前面接で本人、家族の意向をうかがっている。ケア方法などの変更時には当方の意見を提示するとともに、本人確認を行う。本人確認が困難な利用者にはご家族に確認、意見を求めている。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日々の記録や連絡ノートを活用し、ケア方法の変更についてスタッフから意見を集め、最適と考えられる方法を本人・家族へ確認し、変更している。</p>	<p>○ 実際のケア方法の変更は行われているが、計画書として改めて作成し、同意のサインを得られていないため、ケア方法変更時には書面による説明、提示と同意のサインをいただくことを推奨していく。</p>

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアチェック表、介護記録をはじめ、ユニット間連絡ノートを活用し、情報共有とケア方法変更の材料としている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設特養のハード面の活用として、運動機器の活用により利用者の機能維持に努めている。事業所として併設特養と連携を図り、グループホームでの対応が困難な方については特養入所の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	介護相談員が定期的に訪問している。運営推進会議を通じて利用者の状態を理解していただくとともに、地域への関わりを持てるようにしている。	○	地域行事へ参加することで、地域との関わりを深め、利用者の活動の幅が広がるように支援する。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	福祉用具の販売やレンタルが必要な方に対して、専門店の紹介。購入に対してのサポートや試用期間の交渉を支援。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>同一建物の診療所による2週に一回の定期的な往診の実施と、必要時の往診対応。 併設特養への往診Drの往診を希望に応じて行っている(眼科、皮膚科、泌尿器科)</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>神経内科クリニックのDrによる定期往診を行っている。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>医療連携体制加算は算定していないが、併設特養の看護師の支援を必要時に受けることができる。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院先へ入居者の日頃の状態や服薬情報などの情報提供を行う。必要に応じて受診時に付き添い、必要な情報を得るようにしている。 お見舞いを兼ねて状態確認を行うことで、更なる情報収集と退院後の支援方法についてスタッフ間で相談している。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期の受け入れは行っていない。グループホームでの対応が困難となる入居者については併設特養への入所を勧め、退所支援を行っている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化や終末期の受け入れは行っていない。グループホームでの対応が困難となる入居者については併設特養への入所を勧め、退所支援を行っている。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>			
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1.その人らしい暮らしの支援</p>				
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>理念にその人の尊厳を守りますと掲げ、入居者のプライバシーへの配慮に努めている。記録についてや個人情報保護に関する研修を実施し、職員の知識と意識の向上へとつなげている。個人情報保護については年に一回職員に誓約書を書いてもらい、秘密保持の意識向上を図っている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>外出や食事、入浴など、何かを行う前は必ず本人に意向を確認し、強制とならないよう配慮している。本人の反応を全てそのまま受け入れず、必要に応じて何度か確認を行っている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事の時間はある程度決まっているが、その日の体調や気分に応じて、可能な限りの変更に対応している。生活活動や外出についてもその日の利用者それぞれの状態に配慮して支援している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>外出に関しては、ご家族など、協力者の支援の下であれば、本人の望むように対応している。理美容に関しては訪問カットを活用していただけるよう環境整備を行っている。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事前のテーブル拭きや食器の準備から、配膳片づけを可能な利用者と一緒にしている。</p> <p>強制にならないよう自ら役割を持って行っていたできるよう支援している。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>嗜好品の提供により、嗜好飲料について利用者の望む者を提供している。</p> <p>ご家族からの差し入れの食べ物などをお預かりして提供している。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄が自立されておらず、排泄の訴えない方については定期的に誘導を行うことでパターンの把握、おむつ、パットの使用減少に努めている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>最低週2回以上の入浴の機会を確保している。ある程度、入浴の時間帯を定めているが、必要に応じて臨機応変に対応している。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>ご自身が使われていた寝具やパジャマなどを持ってきていただく事で、安眠につながるよう支援している。</p> <p>必要な方には季節に応じて、空調の調整を行わせていただく事で、快適な眠りをしていただけるようにする。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>事前面接での情報収集や、日々の関わりの中で、利用者の趣味嗜好や、力の発揮ができる機会を探り、共同生活内での役割を果たしていただいたり、楽しみを見つけていただけるよう支援している。</p>		


	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お小遣いをお預かりして、管理させていただいている。外出時の買い物などでご本人が望むものがあれば購入してもらったり、コーヒーを飲んだりされている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>近隣の公園への散歩を中心として、商店街への買い物などを積極的に行っている。その日の状態で遠方への外出が困難な場合でも、併設特養の屋上を利用するなどの支援を行っている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>併設デイの車両が使える時に、遠方への外出やドライブレクに使用している。</p>	○	<p>年間計画で具体的な外出場所と日時を定め、ご家族へ早く知らせることで、ご家族にも参加していただけるように促す。</p>
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>郵便物の発送を手伝ったり、利用者への手紙に返事が書けるよう支援している。</p>		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>面会に関する制約は特に設けておらず、訪問された方は皆さんお会いしていただいている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>高齢者虐待と身体拘束についての研修を行っている。身体拘束ゼロへの手引きを職員周知している。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>防犯のため、19時～9時までは各ユニットの玄関は施錠しているが、それ以外の時間については玄関やベランダの出入りは自由である。</p>		
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>定期的な所在確認と夜間の巡視を行っている。利用者の状態により、1時間～2時間に一回は安全確認を実施している。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>利用者が持っている物については、管理が可能な方にはハサミや針を居室で管理していただいている。事業所で管理する刃物などについては、職員と一緒に使っていただく事が出来るよう支援している。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>リスク管理に関する研修を実施している。ひやりはっとや事故報告書を活用し、どのような場面に危険があるのか、どのように対処することで回避できるのかを考えることができるよう職員を指導している。</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>入職時研修で対応している。消防訓練を兼ねて行う。</p>		
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>併設特養と合同で消防訓練を実施している。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ひやりはつとや事故報告書の内容については、随時家族へ報告することで、リスクについて共有し、必要であれば対応策について協力をえる。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	管理日誌や日々の記録、連絡ノートを活用して、状態変化の情報共有や、その際の症状を把握している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携薬局に薬情報を一覧表で提示してもらい、職員が確認できる場所へ保管することで、服薬についての理解を深めている。内容に変更があった場合などは随時更新している。	○	薬手帳を活用し、服薬変更の履歴についても把握できるようにしていく。また、急な受診があた場合でも、服薬履歴が管理でき病院や薬局での確に情報共有ができるよう支援する。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分量一人一日1,500ccを目標に水分摂取を促している。日課としての散歩や併設施設での運動を促進している。また、ヨーグルト、ヤクルトなどの乳製品を使い、その方にあった便秘解消のための飲食物を提供。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時、就寝時など、その方の生活習慣に応じて支援している。	○	職員研修を通じて、感染予防の観点からも口腔ケアの必要性を職員間で共有することで、利用者への声かけや誘導、介助の頻度を向上させる。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立の提供。水分量をチェックし、記録することで、適正な水分量が確保できるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防に関する研修を実施している。 感染対策マニュアルを周知徹底している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品は冷蔵庫などを利用し、適正に保管している。 食器類や調理器具は洗浄後、高温乾燥を行い保管している。 台所周囲は毎晩洗浄を行い、漂白処置を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	敷地内にはいつでも誰でも入ってこれる環境である。 植栽を植えており、暖かみのある空間を作っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活室については季節に応じた植栽や飾りをする事で五感で季節を感じてもらえるように支援している。 ベランダを活用して季節の花を植えることで		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	みなで囲む食卓のほかに、ソファと簡易テーブルを用意することで、離れた空間を確保している。 ベランダにテーブルといすを設置しており、天気の良い日はお茶を飲んでもらったり、談話して頂けるような空間づくりをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具など好きなものを持ち込んでいただくように提案し、利用者が落ち着いて過ごしてもらえる環境作りを支援している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、居室の換気を行っている。 エアコンの目安設定温度(夏28 冬21)を定め、共同生活室、居室の空調管理の指標としている。 利用者の要望や体調に応じて、臨機応変に対応している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な動線を確保し、移動に配慮している。 浴室やトイレなどの転倒のリスクが高い場所には手すりを取り付け、活用していただく事で自立支援を行っている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には各利用者の名前を大きく表示した表札を設けている。トイレも区別がつくよう表記している。 お箸やお茶碗をはじめ、個人の持ち物に名前を記載していただき、お互いが認識できるよう支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	日中のベランダへの出入りは自由であり、気候のいい時はベランダで過ごせるよう椅子と机を用意している。ベランダで植物の育成をしており、季節にあった花が咲くようにしている。 併設特養にある設備も活用し、屋上への散歩や運動器具の活用ができる。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目			
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症ケアと健康管理のために、食べる(栄養)、飲む(水分)、出す(排泄)、活動する(運動)に力を入れています。
『食べる』については併設特養の栄養士の考えた献立を厨房が作ってくださるので安心して提供できています。
『飲む』に関しては毎日の水分摂取量を記録に残すことで、1日の水分摂取量の把握ができ、適正量の提供に役立っています。
またお茶や水のみでなく、嗜好飲料の提供を行うことで、負担のない水分摂取をしていただいています。
『出す』については、日々の献立食以外にも、乳酸菌を含んだ食品や飲料の提供で排泄の補助となるよう支援しています。
『活動』は、毎日散歩に出かけて適度な運動が行っていただけるよう支援しています。近隣の公園や併設特養の屋上などを利用して運動のためだけでなく、季節を感じてもらえるような支援を行っています。
また、併設施設の運動設備を活用し、『パワーリハビリテーション』を行っていただく事で、運動量の確保だけでなく、機能維持・向上に役立っています。